

田植え編

〔今回のポイント〕

健苗移植で活着を早め、初期分けつ（有効茎）を早期に確保！

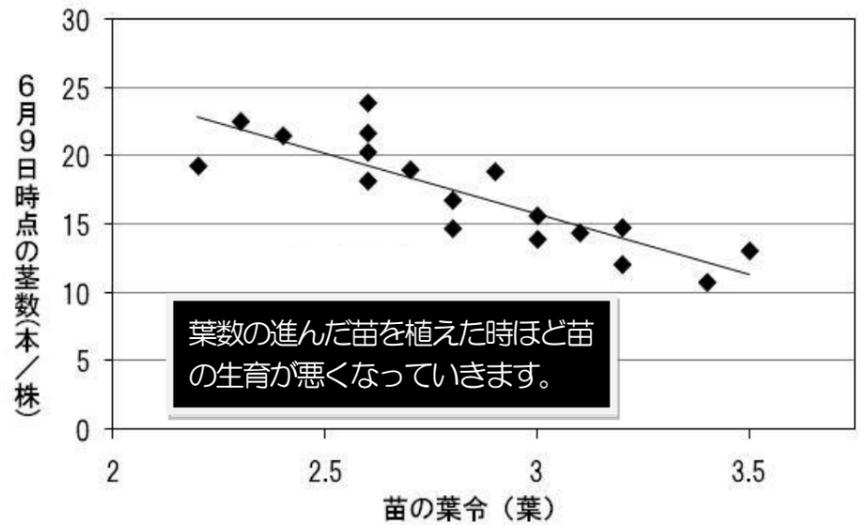
1 苗の準備

葉令が進んだ老化苗を移植すると、活着（自根で養分や水分の吸収が可能）が遅れ、最終的に穂となる分けつ（有効茎）の数が少なくなります。遅く発生した分けつが多くなると、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。

活着を早くするためには、苗の葉数（葉齢）が3枚（3葉期）に達する前に田植えをすることが大切です。

苗は育苗日数が1か月（20～30日）以内で田植えの適期を迎えます。

田植えの4～5日前からは夜間もハウス側面を開放し、苗を外気にならしてください。



田植え時の葉数と分けつ数の関係 (石川県農業試験場)

2 【重要】代かき作業について

環境に配慮した「能登米」生産において濁水の河川流入を防止する観点から、浅水での代かき作業を実施し、田植え前の「強制落水」は避けてください。

3 田植え作業について

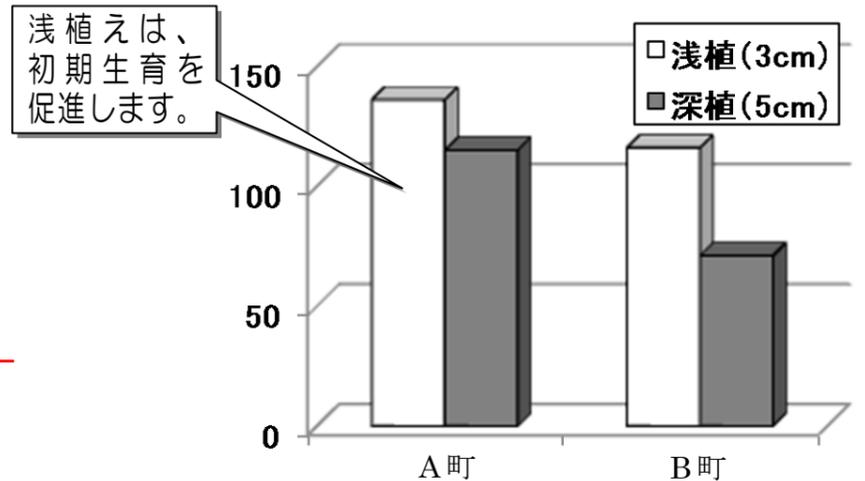
(1) 時期：登熟期の高温を避けるため5月から行う。

(2) 植付本数：1株当たり3～4本

(3) 栽植密度：坪当たり60株程度とし、山間地や遅植えの場合は、未熟粒発生防止のため疎植は避ける。

(4) 植付深度：2～3cm（第1葉が見える程度）の浅植えとする。田植え前には、田植機の植付け深度の設定を確認する。

(5) 水管理：浅水管理を基本とし、低温が予測される日や風が強い日は一時的に深水管理とする（天候回復後は速やかに浅水管理に戻す）。



植付深度による初期の分けつ数の違い
茎数：本/m² (5/18時点)

4 基肥施用について（能登米コシヒカリは化学合成窒素成分量5.6kg/10a以下で生産）

基肥一発肥料は代かき直前（全層施肥）または、田植同時（側条施肥）で施用してください。

全層施肥する際には、代かきから田植えまでを5日以上開けないようにして下さい（日数が開くと、穂肥の溶出パターンとイネの生育にズレが生じるため、倒伏や品質低下を招く原因になります）。

施肥体系	肥料名	施用量 (kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等 (早生)
基肥一発	BB有機入り能登コシー発	20～ <u>上限30</u>	-
	BBけい酸パワー・コシー発くん	40～ <u>上限55</u>	-
	BBスリム早生一発くん	-	35～40
分施体系	BB高度056号	20～ <u>上限28</u>	30～40

※施用量は目安です。地力に応じて加減して下さい。

※コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した能登米栽培のため、施用量の上限を厳守してください。

※BBスリム早生一発くんは、リン酸を含む土づくり資材（PKけいさん、大地パワー等）と併用する。

5 病害虫防除・除草剤の使用について

(1) 苗箱施薬剤の散布について

石川県病害虫発生予察情報ではイネミズゾウムシの発生が「やや多」と予測されています。
初期害虫やいもち病の常発地では必ず防除を実施してください。

苗箱施薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
Dr.オリゼフェルテラ粒剤 (2成分)	田植3日前 ～田植当日	50g/箱	いもち病、白葉枯病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ

※JA中島育苗センターから購入される苗箱には施薬剤が散布済みです。購入者におかれては重複して散布しないようご注意ください。

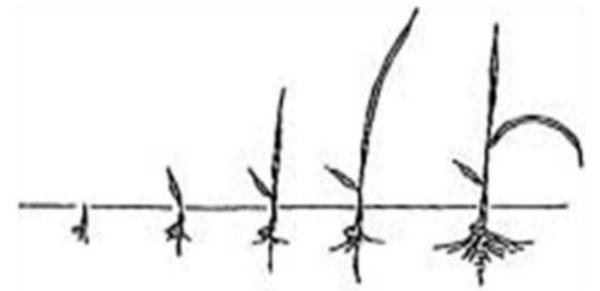
(2) 除草剤の使用について

雑草は代かき直後から発生します。除草剤の使用時期を守り、ノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。

(参考) 代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉期	1.5 葉期	2.0 葉期	2.5 葉期	3.0 葉期
代かき後の日数 (平年の場合)	羽咋	7日	12日	16日	20日	23日
	志賀	8日	13日	17日	21日	25日
	七尾	8日	13日	17日	20日	24日

※5月1日に代かきを行なった場合を平年の有効積算温度により試算



1葉期 2葉期 3葉期

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期	
初中期一発剤	2成分 ガンガン1キログラム粒剤	1 kg	田植同時～ノビエ3葉期	
	3成分 カチボン1キログラム粒剤51	1 kg	田植同時～ノビエ25葉期	
		コメット	1キログラム粒剤 80g	田植同時～ノビエ25葉期
	バッチリ	1キログラム粒剤	1 kg	田植同時～ノビエ25葉期
		フロアブル ジャンボ	500mL 400g	田植同時～ノビエ25葉期 田植直後～ノビエ25葉期
	サラレットKAI1キログラム粒剤	1 kg	田植同時～ノビエ25葉期	

※残草・後発生があった場合

体系	除草剤名	10a使用量	使用時期
後期剤	1成分 ※多年生雑草が残った場合 アトリ1キログラム粒剤	1 kg	田植後20日 (稲5葉期以降)～ ノビエ4葉期
	※ノビエが残った場合 ヒエクリーン1キログラム粒剤	1 kg	田植後15日～ ノビエ4葉期
	※広葉・多年生雑草が残った場合 ハサグラン粒剤	3～4 kg	田植後15～50日 (落水散布)

※本年度から能登米コシヒカリに使用可能な除草剤(初中期一発剤)が変更されております。昨年度まで使用可能であった除草剤は本年度に限り使用可能です。

(「能登米コシヒカリ」以外は除草剤の指定はありません。)

初期剤	1成分 マーシット1キログラム粒剤	1 kg	田植同時～ノビエ1葉期
	バクサーフロアブル	500mL	田植同時～ノビエ発生始期

中期剤	3成分 マメットSM1キログラム粒剤	1 kg	田植後20～30日 ノビエ3.5葉期
-----	-----------------------	------	-----------------------

除草剤を田植同時処理した場合、入水が遅れ気味になりますが、田植後、直ちにゆるやかに入水し、湛水(4～5cm)を保ちましょう。除草剤の有効成分は、一旦水中に溶け出した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。安定した効果を得るために、散布後3～4日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態とし、散布後7日間は落水やかけ流しはしないでください。

水持ちが悪いほ場でやむを得ず入水する場合(散布後3～4日以降)は静かに(処理層を壊さないように)行う。

6 補植作業には注意を

20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株の補償作用で減収にはつながりません。補植する場合は、除草剤の散布前に実施して下さい(除草剤散布後では、補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります)。補植苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業終了後は速やかにほ場から撤去して下さい。

安全・安心な環境にやさしい能登のこめづくりルール

□安全・安心な米を提供するため、農薬はラベルに記述してある使用方法を厳守して下さい。

□育苗ハウス内の後作に野菜を栽培する場合は、ハウス内で水稲用農薬を散布しないでください。(農薬が残留すると野菜の出荷・販売は出来ません)